

【クレーム情報】

スエード調人工皮革の経時劣化

天然皮革の形状に似せた素材には、合成皮革と人工皮革がある。織物や編物の表面にポリウレタン樹脂、ポリ塩化ビニル樹脂などをコーティングした合成皮革については、剥離や硬化などの事故が種々紹介されているが、人工皮革の経時劣化については、意外に知られていない。今回は、スエード調人工皮革の経時劣化について紹介する。

■事故の状態

スエード調人工皮革を素材にした婦人コートの後首にあたる部分の繊維がほぐれて、穴が開いた状態になっている。

■原因

ポリエステル製の微細な繊維を接着しているポリウレタン樹脂が、空気中の水分や着用により付着した汗、その他の汚れなどの影響を受け経時劣化したため、不織布状になっていたポリエステル繊維がほぐされたような状態となり、さらに着用やクリーニングでの物理的作用が加わることで穴あきの状態（≡損耗）になったものと推定される。

ドライクリーニングで残留するドライ洗剤などもスエード調人工皮革を劣化させる要因になる。

■事故の防止対策

接着剤として使用されているポリウレタン樹脂の経時劣化は避けることができないため、抜本的な防止策はない。

スエード調人工皮革は、最終的

に自然発生的な損耗などの形で寿命を迎えることを情報として公開し、利用者に理解してもらうことが必要と考えられる。

こうした品物のクリーニングを受け付ける際は、年数が経過している場合、クリーニング処理で損耗などが生じる可能性があることを利用者に事前に伝え、理解を得ることが望ましい。

また、ドライクリーニングの場合にはドライ洗剤が残留しないように処理することが必要。

■人工皮革とは

天然皮革の外観や構造をまねて、ポリエステル、ナイロンなどの極微細繊維を不織布状にしてポリウレタン樹脂などで接着したもの。スエードタイプのもものと銀面タイプのもものがあり、どちらも外観からは天然皮革との区別が困難である。

天然皮革に比べて、軽い（天然皮革の約半分程度）、腐らない、かびが生えない、水に対して形態安定性に優れる、様々な色に染色でき比較的堅ろう性に優れる、品質

が均一である、などの特徴がある。しかし、年数が経過したものについては、ポリウレタン樹脂の経時劣化により今回紹介した事故例のように、クリーニングでの物理的作用が加わることで損傷したり、損耗部分が拡大することなどがあり、注意が必要。



写真2 後首にあたる部分のスエード調人工皮革の繊維がほぐれて、穴が開いた状態になっている



写真1 スエード調人工皮革を使用した婦人コート

- 品名…婦人コート
- 素材…スエード調人工皮革（ポリエステル繊維を不織布状にしてポリウレタン樹脂で接着した構造）
- 取扱い絵表示
 
- 処理方法…石油系溶剤によるドライクリーニング、タンブラー乾燥、スチームによる仕上